



この先の二十年に

祝 医療法人財団はまゆう会

創立二十周年記念式典

六月二十八日(日)午前九時三十分より相生リハビリテーションクリニックにて医療法人財団はまゆう会の創立二十周年記念の式典がありました。

「さわやか」からは山田理事長と梶原常務理事が出席しました。

はじめに、医療法人財団はまゆう会市丸喜一郎理事長が「二十年、あつという間に過ぎ、今までやってこられたのは、患者様、医療関係の施設や病院等の協力をはじめ、いろいろな方々からのサポートがあったからと感謝の意を述べられ、振り返ってみて、自分たちが、どんな立場にいるのか、ということをもう一度確かめ、先の二十年につなげたい」と挨拶がありました。



第35回 ボランティア研修交流会 (バスハイク)

「さわやか」 ミステリーツアー

と題して開催いたします

日にち **9月6日(日)**

集合時間等詳細は、

後日お知らせ致します

ボランティアの皆様
 参加お待ちしております



皆で、病院を

盛り上げていこう



はまゆうの花

次に福岡県腎臓病患者連絡協議会塩屋利且会長が創立二十周年のお祝いの言葉として、今や透析患者は全国で二十九万人となり、透析導入時の平均年齢が六十七・二歳となりました。これからは通院送迎の問題も重要になって行くと同時に私生活のQOLを高めるために、スタッフ、ドクター、患者がお互いに思いやりと感謝をもって生活していかなければならないと述べ、その充実した生活を進めていくために全腎協と共に福腎協でも努力していきますと挨拶がありました。

また、はまゆう会腎友会岩崎真一会長は、はまゆう会の原点である黒崎クリニックを振り返りあの時は手探りの中、皆で病院を盛り上げて行こうという気持ちがあった今でも変わっておりません、これからの腎友会の歩みとして地域に密着した透析病院を目指しているはまゆう会と共に歩んでいきますと挨拶がありました。

お盆休みの

お知らせ

8月13日より

8月16日まで

事務局は
 休ませて
 いただきます



「はまゆう会二十年の足跡と飛躍への道のり」これからの二十年飛躍」としてDVD上映があり、次に今まではまゆう会に功績のあった方々への表彰がありました。

記念講演は市丸理事長と三十年のお付き合いがある、医療法人恵水会札幌クリニック大平整爾院長を講師として「いかによく生きるか」事前意志表明の大切さ」と題して講演がありました。

生きる勇氣あれば

幸せの源になる

もうおひと方は、浄土宗弘善寺、副住職柴田泰山師を講師として仏教のほうから見た「いかに生きるか」と題して今をどのように生きればよいか、当たり前の日常の中で今、生きている

ことを受け止め、自信を持ち、人生九回裏スリーアウトまでただ一つの人生をこの身このままで今を生きていかねばならない、後戻りはできない。生きる勇氣あればこそ、幸せの源になる。とご住職の熱心な講演がありました。

暑中お見舞い
 申しあげます

梅雨明けも間近となつて参りました。これから更に暑い日が続くと思いますが、皆様、体調など崩されませんようにお気をつけください。



「さわやか」新聞も今回で百五十号の発刊となりました。これも偏に皆様方のご支援、ご協力のお陰でございます。これからも、事務局一同頑張つて参りますので、引き続きよろしくお願い致します。

理事長 山田 浩美
 事務局一同

人にやさしいまちづくりを目指して

・バリアフリー新法を学ぶ・

北九州市障害福祉団体連絡協議会（障団連）主催

七月三日（金）午後七時より、障団連主催の研修会が、ウエルとばた六階にて行われ、「さわやか」から四名が参加しました。

講師として、北九州市建築都市局指導部建築指導課の今崎頼子氏をお迎えして、「バリアフリー新法を学ぶ、人にやさしいまちづくりを目指して」建築物のバリアフリーについて講座がありました。

始めに、バリアフリーの取り組みとして、「バリアフリー新法」と「福岡福祉のまちづくり条例」の二つに分けて話がありました。バリアフリー新法は、平成十八年に成立され、従来には「ハートビル法」と「交通バリアフリー法」があり、それを統合・拡充したものが「バリアフリー新法」です。

公共の福祉の増進

法律の目的は、建築物、道路等を、高齢者や障害者等の移動及び施設の利用上の利便性と安全性の向上の促進を図る事により、公共の福祉の増進に資する事です。

そして、バリアフリー法には、「特定建築物」と「特別特定建築物」に分かれています。

特定建築物とは、多数の方々が利用する建築物で、特別特定建築物とは、不特定かつ多数の方々や主として高齢者、障害者等が利用するもので円滑に利用できるようにする事が特に必要な建築物です。

7月22日

46年ぶりの皆既日食が見れます

今回の日食は、場所によっては皆既の始めから終わりまでの時間が、最長6分44秒と、21世紀起こる皆既日食ではもっとも長く、太陽の高度も高いので最高の条件となります。

皆既日食が見られる地域は、奄美大島北部、トカラ列島、屋久島、種子島南部、北硫黄島、硫黄島などで見られ、また、全国各地では、部分日食が見られます。

全国各地で、午前9時30分以降、昼にかけて見ごたえのある部分日食を楽しめ



シンボルマーク

つくろいよした

地域社会を築く

次に、「福岡県福祉のまちづくり条例」について話があり、福岡県福祉のまちづくり条例は、平成十年度に施行され、目的は、すべての県民が、日常生活、社会活動をしていく上でのバ

リアとなるものを取り除き、社会、文化、経済などあらゆる分野の活動に自らの意思で参加できるいきいきとした地域社会を築く事です。条例には、「まちづくり施設」と「特定まちづくり施設」に分かれており、まちづくり施設とは、病院、劇場の他、不特定かつ多数の方が利用する部分を有する施設で、特定まちづくり施設とは、まちづくり施設のうち、計画の届けが必要なものです。

誰もが、安全かつ快適に利用できる

その他の条例に、整備基準があります。整備基準とは、建物の出入口や廊下の幅など、誰もが施設を安全かつ快適に利用できる為に必要となる寸法や仕様などを定めた基準であり、望ましい基準とは、整備基準より高い水準での取り組みを期待して設定する基準の事です。

続いて、バリアフリー法に基づく北九州市内建設物の状況で、ウエルとばたを事例として紹介がありました。その後、質疑応答があり、午後八時三十分を終了しました。



7月22日各地の日食の時刻
日本気象協会HPより

皆既日食のしくみ

太陽が月によってすっぽりと隠れ、あたりが瞬く間に暗くなっていく現象を皆既日食といいます。

三〇〇年に一度の奇跡

次回日本国内で皆既日食が見れるのは26年後の二〇三五年、同じ地域で皆既日食が、見られるのは三〇〇年に一度といわれています。

(インターネットより抜粋)